令和５年度（2023 年度）第８回政策会議

日　時：令和６年（2024）年１月 19 日（金）10:15～10:40
会　場：市長会議室
参集者：大泉市長，佐藤副市長，手塚企業局長，藤井教育長，
　　阿部企画部長，池田総務部長，島田財務部長

付議事項

函館市病院事業経営強化プランの策定について

対 応 者

氏家病院局長，深草病院局管理部長，田村病院局管理部次長，
熊木病院局管理部経理課長

◆議題の趣旨◆

函館市病院事業経営強化プランの策定について協議しました。

◆協議の結果◆

原案のとおり，本件の内容は了承されました。

◆主な発言◆

■深草病院局管理部長

公立病院は，地域医療や新興感染症の拡大時に重要な役割を果たしているが，人口減少や少子高齢化などによる医療需要の変化，医師や看護師等の不足などを見据え，持続可能な地域医療体制を確保するため，国から公立病院の経営強化プランの策定を求められていることから，この度函館市病院事業経営強化プランを策定した。内容については経理課長から説明する。

■熊木病院局管理部経理課長

函館市病院事業経営強化プランの原案について説明する。

本プランの期間は令和５年度，（2023 年度）から令和９年度，（2027 年度）までの５年間としている。

プラン策定後は，外部の有識者などで構成する評価委員会を設置し，毎年度，

点検評価を行いたいと考えている。

市立病院が果たすべき役割，機能について，まず函館病院については，高度急性期，急性期医療を中心に，不採算部門を含め３次医療圏内の基幹病院として，地域医療を担保するという役割としている。恵山病院については，恵山，戸井，椴法華地域における保健・医療・福祉の総合的な施策を実施する上で，中心的な役割を担うとともに，人工透析等の慢性期の医療を提供することとしている。南茅部病院についても，恵山病院とほぼ同じ役割を担うことになるが，築 50 年を経過していることから，先に説明した市立函館南茅部病院移転新築基本計画に基づき移転新築を進めていく。

次に，機能分化，連携強化について，函館病院は急性期を担う基幹病院として，医師，看護師等の職員の確保に努めることとし，恵山病院，南茅部病院は慢性期，回復期を担い，函館病院から診療応援等を受ける体制を作ることとする。

次に，医療機能や医療の質，連携の強化等に係る数値目標としては，それぞれの病院ごとに手術件数など数値目標を設定し，取り組みたいと考えている。

次に，一般会計における経費負担の考え方については，総務省副大臣通知による繰り出し基準を基本として現在のルールをそのまま継続するという形になっている。

次に，医師，看護師等の確保と働き方改革について説明する。

一番のポイントは，医師の働き方改革への対応になるが，医師と医療従事者，関係職種との間で，業務のタスクシフト，タスクシェアを推進し，ＩＣＴ等の活用等の取り組みを進め，労働時間短縮を含めた職場環境の改善に努めたいと考えている。

次に，経営形態の見直しについて，事業形態の見直しとして南茅部病院の診療所化を検討することとしているが，引き続き，地方公営企業法の全部適用を継続し，経営改善に努めるということにしている。

次に，新興感染症の感染拡大等に備えた平時からの取り組みについて，この度の新型コロナウイルス感染症の対応で得た知見を活用し，感染拡大時の対応病床の整備や転用しやすいスペースを設けることなど，平時から新興感染症の感染拡大時に備えることとしている。

次に，施設設備の最適化については，函館病院と恵山病院は，建設からそれぞれ 20 年程度経過し，空調等の附帯設備は，経年劣化等による不具合や故障も生じてきていることから，長寿命化に向け計画的に修繕更新を実施したいと考えている。この点については，本日欠席の田畑副市長から，施設設備の長寿命化や今後の人員配置などを含めた計画を作るようにという指摘があった。

次に，南茅部病院については，先ほど説明したとおり，市立函館南茅部病院移転新築基本計画に基づいた施設整備を進めていく。

次に，経営の効率化等については，経営指標に係る数値目標として経常収支比率など経営指標を複数設定し，達成に向けて取り組んでいく。
評価に向けた具体的な取り組みについて，函館病院では入院件数の増加や平均在院日数の適正化などの項目を挙げ，取り組みを進めたいと考えている。
経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画について，単年度資金収支で，函館病院では令和５年度見込みで１億２千６百万円の黒字だが，令和６年度以降は赤字が続く形となっている。これは，経年劣化等による不具合や故障が生じている空調設備などの附帯設備について，計画的に更新するための経費，修繕費を計上していることによる。この特殊な修繕費を除くと，収支がほぼ均衡するということを目標に，効率的な運営をしていきたいと考えている。
説明については以上となる。

■佐藤副市長
数値目標値について，例えば全身麻酔手術件数が令和４年の実績で 2,053 件であるのに対し，目標値が 2,100 件以上となっている。あまり高くない数値目標に見えたが，現状としてはいかがか。

■氏家病院局長
この数値が，函館病院として最低の目標であって，これを少しずつ増やさなければいけないと考えている。そのためには人員配置など色々な問題があるが，解決していかななければならないと思っている。
どうしても，大学の医局から医者に来てもらう必要があるため，医者を集められる環境づくりをしていかなければならないと考えている。
今，医局自体もかなり従来と変わってきており，地方へ行ってもらいたい旨伝えると，それであれば辞めますという者もいる。函病自体の魅力度を上げて，医者を集めてこなければならないと考えている。

■佐藤副市長
承知した。よろしくお願いしたい。

■大泉市長
様々，重要なことも記載されていると思う。特に今話のあった，臨床研修医の受け入れを通じた若手医師の確保という項目や，それ以外にも医師を獲得するため様々な取り組みがあるのだろうと思う。市立病院のみではなくまち全体として，人口減少や課題を解決することは当然であり，それにプラスして，函館市が魅力的な地域であることをアピールしていかなければならないし，少しずつパイ

プづくりも進めたいと思っている。

■氏家病院局長
　函館病院は，現在，医業収支で言うと自治体病院としてはトップである。コロナの補助金と関係なく，そういう形でやってきている点は良いことだが，医師が働きたい病院となると道内で７番目となっており，ここを上げていかなければならないと考えている。

■阿部企画部長
　他に意見がなければ，原案のとおり了承とさせていただく。